

授業科目 疫学

【担当教員名】 遠藤 和男		対象学年	2	対象学科	健康
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解		思考・判断		関心・意欲	
◎		◎		○	
【概要・一般目標：G10】 <概要> 公衆栄養学及びその実践である地域保健活動にとって、根本的な理論が「疫学」であり、いわば原理と方法論である。 1年で学んだ公衆衛生学及び3年で学ぶ統計情報処理も、本来その応用である。共通するEBM(Evidence-based Medicine)の基礎について修得する。 <一般目標：G10> 証拠に基づいた医療であるEBM(Evidence-based Medicine)を用いたチーム医療に参加するために、その原理としての疫学的考え方をを用いて、各種疾病の特徴を理解する。					
【行動目標：SBO】					
1. 証拠に基づいた医療であるEBMの重要性を説明できる。 2. 疫学研究で用いられる指標を列挙できる。 3. 各種疾病の原因を説明できる。 4. 各種疾病の予防対策を立てることができる。 5. 常に証拠に基づいて議論する習慣を身につける。					
回数	授業計画・学習の主題		SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員	
1	疫学とは、疫学の歴史		1	講義+小テスト、担当：遠藤 和男	
2	疾患の自然史と疫学の指標		1,2	講義+小テスト、担当：遠藤 和男	
3	感染症の疫学1		1,2	講義+グループワーク、担当：遠藤 和男	
4	感染症の疫学2		3-5	グループワーク、担当：遠藤 和男	
5	感染症の疫学3		3-5	成果発表、担当：遠藤 和男	
6	職業病と疫学1		1,2	講義+グループワーク、担当：遠藤 和男	
7	職業病と疫学2		3-5	グループワーク、担当：遠藤 和男	
8	職業病と疫学3		3-5	成果発表、担当：遠藤 和男	
9	公害病の疫学1		1,2	講義+グループワーク、担当：遠藤 和男	
10	公害病の疫学2		3-5	グループワーク、担当：遠藤 和男	
11	公害病の疫学3		3-5	成果発表、担当：遠藤 和男	
12	生活習慣病の疫学1		1,2	講義+グループワーク、担当：遠藤 和男	
13	生活習慣病の疫学2		3-5	グループワーク、担当：遠藤 和男	
14	生活習慣病の疫学3		3-5	成果発表、担当：遠藤 和男	
15	まとめと総合演習（国家試験問題の検討）		1-5	講義と演習、担当：遠藤 和男	
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		シンプル衛生公衆衛生学	鈴木庄亮、久道茂、編	南江堂	2014・2,400円+税・1年生の公衆衛生学で使用した。
		保健統計テキスト改訂版	遠藤和男	考古堂	2010・2,800円+税・3年次の「保健統計学」でも使用を予定。
参考書					
その他の資料					
【評価方法】			【履修上の留意点】		
1) グループ発表の出来栄は、学生間でも相互評価する。 2) 出席態度も考慮して、レポート及び小テストの結果から評価する。			・3回目以降のグループワークは6人×7グループを基本とする。		